

外部人材を地域産業に呼び込み、 定着を支援する「受け皿力」とは。 フィッシャーマン・ジャパンの担い手育成事業

—第10回寺子屋ローカルSDGs開催レポート—

[地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業](#)では、地域循環共生圏づくりを通して地域を元気にしたいと考える地域や企業が、ともに学び、つながり合う場として「寺子屋ローカルSDGs」というコミュニティをつくっています。

第10回は、一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン 島本 幸奈さんをお招きし、『海とひと、ウチとソトをつなぐ～海の豊かさをつくる、担い手のつくり方～』をテーマに勉強会を開催しました。

その内容をレポートします。

一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン 島本 幸奈さんプロフィール

千葉県出身。海とともに生きる漁師たちの想いに共感し、「フィッシャーマン・ジャパン」立ち上げメンバーの1人として関わる。主に担い手育成事業（TRITON PROJECT）を担当し、親方漁師と担い手をマッチング・漁業専門求人サイト運営・漁師学校の開催・シェアハウスの運営などを行い、これまで50名以上の漁師になりたい若者の受入れに関わる。

魚がいなくなるのが先か、漁師がいなくなるのが先か——厳しい日本の漁業の現実

島本：フィッシャーマン・ジャパンは、宮城県石巻市からスタートした漁師集団です。地元の漁師や魚屋が、東日本大震災をきっかけに立ち上げました。

私自身は千葉県出身で、東日本大震災のボランティアをきっかけに石巻にやってきました。

はじめの頃は、がれき撤去や炊き出しの活動をしていましたが、その後経済的支援の一貫として通販サイト「石巻元気商店」の店長を務めていました。

その時に漁師たちに出会い、生産現場の想いに触れたことをきっかけに、フィッシャーメン・ジャパンの立ち上げに関わるようになりました。漁の船に乗って、その場で獲れたカキを食べることを経験した時に、「水産業の良さを多くの人に届けていきたい」と思ったことがきっかけです。

主に「担い手育成事業」を担当しており、今まで約60名の「漁師になりたい若者」の受入れに関わっています。

はじめに、日本の漁業の現状について共有します。

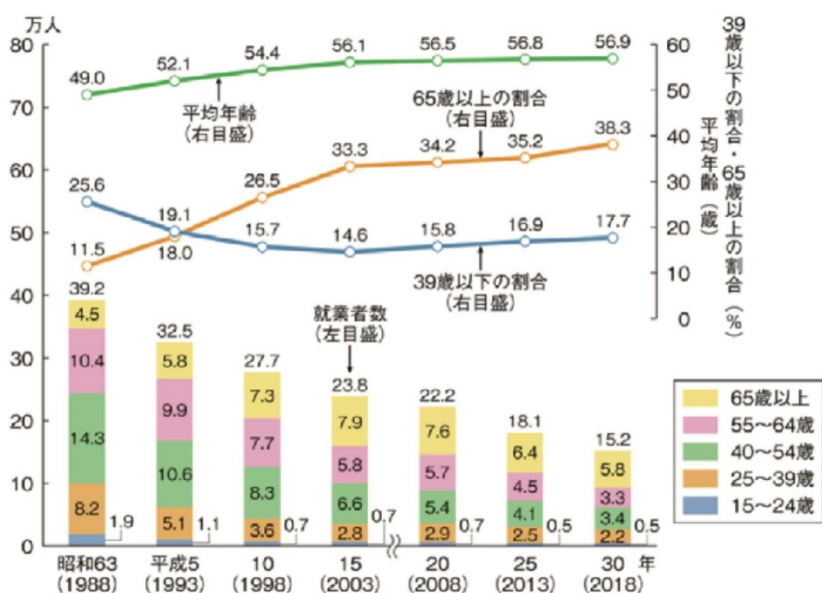
日本の漁師の数は、この20年間で約32万人から約15万人まで減ってしまっています。さらに、平均年齢は56歳、そのうち65歳以上の方の割合が約4割です。後継者がいる方は、全体の約2割しかいません。

魚がいなくなるのが先か、漁師がいなくなるのが先か——

こんなことが言われている今、国や自治体で漁業就業者を増やすためのさまざまな取組が行われていますが、現状は厳しい状態です。

漁業就業者の推移

減り続ける日本の漁師は20年間で約半分に・・・



漁業就業者数の推移(水産庁HPより転載)

そして、漁師の数だけではなく、水産業の生産量も減っています。ピークだった1985年の生産量に比べると、2018年で約3分の1の442万トンに減ってしまっています。

皆さんの生活に近いところの例を挙げると、サンマの水揚げ量は平成の後半からずっと右肩下がりです。

石巻では、震災前は獲れなかったシイラ（主に温帯地域に分布する表層性の大型肉食魚）が揚がってくるようになってきました。魚にとって水温1度の変化はとて大きいようで、温暖化の影響が漁業にも出ている状況です。

日本人の魚介類の消費量は、2001年を境目に右肩下がりになっており、現在は魚介類の消費量を肉類の消費量が上回っています。こうした魚食離れの背景には、価格の高さや調理の手間があるのではないかとされています。

日本人が食べているお魚のうち、実は約40%が海外からやって来ています。日本国内での食用魚介類の自給率はピーク時の約半分にまで下がってしまっており、輸入に頼っているのが現状です。

一方、世界に目を向けてみると水産業は成長産業で、需要も伸びています。

水産業の生産量の世界順位の推移を見てみると、日本は元々1位～2位で「水産大国」と言われていましたが、現在は大きく順位を下げてしまっています。

小さく、限られた資源の島国日本において、食につながる産業を残していくことは大切なことだと思っています。

こうした背景から危機感を持ち、私たちはフィッシャーマン・ジャパンを立ち上げて活動をしています。

漁業を、カッコよくて、稼げて、革新的な《新3K》にする、フィッシャーマン・ジャパン

私たちの団体に所属する漁師たちは、親世代から「勉強して役場職員になれ」と言われて育っている人が多いです。お爺さんもお父さんも漁師で、自分も漁師を継ぐつもりでいたのに、親からこう言われてしまう現実がありました。

震災前から右肩下がりだった産業が、震災でさらに被害を受けました。「ここでできないことは、日本各地の漁村でもできないのではないかと考え、浜を越えて、業種を超えて、強いチームを作っていく活動をするために団体を立ち上げました。

まずは、こちらの動画をご覧ください。漁師の働く姿をより多くの人に届けられるように、PVの形で私たちの活動を紹介をしています。

動画：The promotion movie of fisherman Japan

<https://youtu.be/HCOsKcQ555A>

私たちは、「水産業に革命を起こす漁師集団」として、「カッコよくて、稼げて、革新的な《新3K》」を目指しています。元々、「キツイ、汚い、危険」と言われていた産業を、《新3K》に変え、世界に挑戦しながら、水産業の未来を変えていきたいと思っています。



私たちは、水産業の仕組みに関わる全ての人たちを「フィッシャーマン」と呼んでいます。獲る／育てる漁師だけではなく、加工する人、卸す人、情報発信する人、売る人、全員がフィッシャーマンです。

「カッコよくて、稼げて、革新的な漁業を目指す」ために、情報発信・クリエイティブにもこだわっています。

情報発信は東京の制作チームと連携して行っているのですが、定期的に石巻に来て漁船に乗ってもらうなど、同じものを見て、共通認識を持つことを大切にしています。

親方さんと担い手くんのマッチングを一気通貫して支援する、担い手育成事業

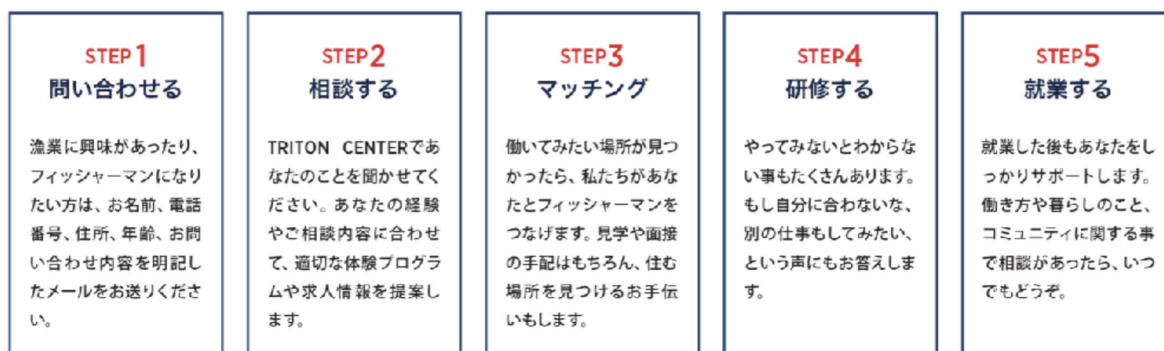
担い手育成事業は、「TRITON PROJECT」と名付けて、2015年から活動をしています。

最初は自主事業としてスタートしたのですが、ちょうど同じ頃に本拠地を置いている石巻市も「地域の基幹産業である水産業の課題を解決していきたい」という課題意識を持っており、石巻市から「担い手育成事業」の委託を受けるようになりました。

行政をはじめとする関係者の皆さんと同じ課題意識を持ってスタートを切れたことが、成功につながる要因の一つだったと思っています。

担い手育成事業では、フィッシャーマンになるまでの5STEPを一気通貫して支援しています。

フィッシャーマンになるまでの 5STEP



まず、受け入れの土台になる住環境を整えるために、沿岸部にある空き家を改修して漁師専用のシェアハウスを運営しています。住まいを確保するだけでなく、シェアハウスの機能を持たせることによって、担い手として地域外から地域に来ている同じ境遇の人たち同士で相談できる環境づくりを行いました。

また、外から人を呼び込むにあたって、求人情報の作成を漁師さんたちと一緒に行いました。求人情報をまとめるために、年間のお仕事の内容や、どんな人と一緒に働くことになるのかなど、ヒアリングを行います。

担い手候補者は、自社運営の水産業特化型求人サイトから募集を行っており、問い合わせに対するマッチングのサポートも行っています。

体験してみないと分からないこともあるため、「漁師学校」という形で研修のプログラムを提供するなど、サポートも手厚く行っています。

今では、石巻市だけではなく、気仙沼市や宮城県からもお仕事をいただきながら、担い手育成の仕事をしています。

北は青森・南は福岡など、様々な都道府県から「漁師になりたい」という方がやってきています。「海が好き」「釣りが好き」という人が比較的多く、年齢はバラバラです。高校・大学新卒でやってくる人もいれば、40代で長い期間企業に勤めたあと「人生一度きりなので好きなことをしたい」という理由で転職されてくる方もいます。

担い手としてやってきた人がどのように働いているのか、こちらの動画をご覧ください。

動画：革命ですよ | TRITONPROJECT

<https://www.youtube.com/watch?v=4ildSXi6xE>

動画を見ていただくと分かるように、彼らは本当に生き生きと働いています。親方さんや、そのほかの漁師さんたちが、担い手くんのことを温かく見守って受け入れてくださっているおかげです。

私たちは、親方さんたちに「息子が一人増えるくらいの気持ちで、担い手くんを受け入れてくださいね」と、受け入れ前をお願いしています。

こうして受け入れてくださることによって、担い手くんたちは様々なことを親方さんに教わりながら、地域に少しずつ馴染んでいきます。

大阪からやって来たAくんが、親方さんに最初に言われたのは、「誰に会っても、いつ・どんな時でも元気よく挨拶しなさい」ということでした。

約6000人の漁村民に、大阪ナンバーの軽自動車走っているだけで、「なんだ、アイツは?!」と地域がざわつきます。でも、そこから降りてくる若者が元気に挨拶をすることで、「あの子、いい子そうだよ」という噂がどんどん広まっていきます。



最初の頃は、地域の偉い漁師さんから「お前なんか呼んでない、大阪に帰れ！」と言われていたのですが、彼が頑張って漁業に取り組む姿を見て、「本当にここでやりたいんだったら俺も応援してやるから」と、船を持ったり、地域の漁業権を得るための協力をしてくれるようにもなりました。

岡山県からやって来たBくんは、海苔漁をやっています。もともと引っ込み思案な部分もあったのですが、親方さんが息子のように可愛がってくださったことで、周りの漁師さんからの評判もすごくよくなりました。

1人の成功事例ができることで、「ああいう子に来るんだったら、自分のところにも担い手が欲しいな」と言ってくれる漁師さんがどんどん増えるということも起こりました。

群馬県からやって来たC君は、刺し網漁とホヤ漁をやっています。最近、シェアハウスから地域の復興公営住宅に転居し、「この地域で自分はやっていきますよ」という意思表示するステップを踏み始めています。

Dくんは、1泊2日の漁師学校に3回参加しました。3回目ですと「ここだったら自分がやりたい漁業をできる」「この人に教わりたい」と思える親方さんに出会い、その親方さんの元に就業して行きました。

漁師として一緒に仕事をすると、365日のうち大半を家族同様に過ごすことになるので、「この人と働きたい」と思えることはとても大切なことです。

親方さん自身も、「この子に自分の息子のようにいろいろなことを伝えたい」と思えないと、その後が続いていきません。

漁師さんたちの多くは家族経営でやってきているので、新規の方を受け入れるという経験はほとんどありません。

なので、きちんと履歴書ももらって、面談をして、船に乗ってもらって、こうしたステップをしっかりと踏みながら、「お互いに良いと思えたら雇うようにしましょう」というご提案をしています。

親方さんと担い手くんたちが集う「師弟サミット」というイベントも定期的を開催しており、親方さん同士・担い手くん同士の情報交換の機会になっています。

「師弟サミット」には、市の水産課や漁協の職員さんもたくさん参加してくれています。「周りで見守っている人がこんなにいますよ。困ったらいつでも相談に乗れますよ」ということを、親方さん・担い手くんに感じてもらえるような場づくりを心がけています。

こうした縦・横・斜めのつながりができることで、良い協力関係にもつながります。とある浜の親方さんから「あの子が船を探しているらしいよ」という話が聞こえてくると、別の浜の親方さんたちが「俺たちの浜でも聞いてみるよ」と、力になってくださることもあります。

地域に外から人を受け入れるために必要なのは、「覚悟」と地域で一体となつてつくる「受け皿力」

私たちは、地域の産業を守ることを目指して、地域一体となって活動をしています。

地域に新規就業者を受け入れるためには、仕事があること、住まいがあること、コミュニティがあることが必要です。地域の外から来た人が、長く地域に根付き、どうやって収入を得て生きていくのか、将来的なことも含めて考えることが大切です。

私たちは、受け入れ前に、親方さんがどれだけ売上をあげているのかや、担い手くんにお給料を支払い続けることができそうか、面談でしっかりを確認をしています。

これまでは基本的に家族経営でやっていた漁師さんたちなので、お給料を支払うということ自体が初めてなケースもあるんですね。

まず、「年間を通じて雇用することができますか？」「そのための資金力はあるんですか？」という質問をしています。この確認によって、受け入れ側の親方さんに「覚悟」が生まれます。

また、こうしたやりとりをする中で、それまで閑散期はお休みをしていた親方さんが、「今までやっていなかったこともやってみよう」「事業規模を拡大してみよう」と考えるようになることもあります。

親方さんは売上をあげることができ、担い手くんもちゃんとお給料をもらえる、漁協さんも地域の水揚げ量が伸びる、こうした地域全体でwin-winな状況を作ることを目指しています。

一方で、仕事以上に大切だと感じるのは、親方漁師さん・漁協職員さん・行政・民間団体がチームとなってつくる受け皿力です。

その地域で生まれ育っていない若い人を受け入れるということは、地域の当たり前が分からない、理解できない人を受け入れていくということです。なので、そこを0から伝えていく根気強さが、受け入れていく側には必要だと思っています。

=====

「寺子屋ローカルSDGs」学び編では、こうした講義に加え、後半は質疑応答やカジュアルな意見交換の場を設け、より生々しいノウハウの共有を行っています。

「寺子屋ローカルSDGs」は、原則として、地域循環共生圏づくりプラットフォームの登録団体（地域・企業等）またはメールマガジン配信者向けのプログラムとなります。参加されたい場合、まずは地域・企業・個人いずれかでの各種登録をご検討ください。個人配信ならばすぐにご参加いただけます。

◆実践登録地域制度については[こちら](#)から。

http://chiikijunkan.env.go.jp/tsunagaru/chiiki_touroku/

◆企業等登録制度については[こちら](#)から。

http://chiikijunkan.env.go.jp/deau/kigyo_touroku/

◆個別メールマガジン配信については[こちら](#)から、トップページ下部をご覧ください。

<http://chiikijunkan.env.go.jp/>